

令和6年度 筑波大学附属病院訪問

2 学年医学コースの生徒30 名が、10 月29 日（火）に筑波大学附属病院を訪問しました。最初に総合診療科の橋本先生より模擬講義をしていただきました。医学群を卒業するまでに身につけてほしい能力（卒業時コンピテンシー）と、それらが実際の現場でどのように生かされるのかについてお話をしていただきました。先生が実際に経験された緩和ケアに関する事例を共有し、生徒たちはこの患者に何ができるかについて考えました。病気だけに注目するのではなく、患者や家族の苦しみに寄り添い、多職種のスタッフと協力して対応するために社会性とコミュニケーション力が求められることを学びました。次に模擬実習では、聴診器を装着し、血圧の測定を練習しました。生徒たちは脈拍や血流の音を聞きながら、収縮期血圧と拡張期血圧を測定しました。生徒たちは先生方に質問しながら積極的に取り組んでいました。学生食堂で昼食をとった後、午後は附属病院内の施設を見学しました。屋上のヘリポートや手術室、ICU などの救急治療施設を見せていただき、実際に手術が行われている様子をモニターで見たり、集中治療にあたっている医師の姿を見たりすることができ、医療現場を身近に感じることができました。最後に筑波大学の医学教育や附属病院の特色などについて消火器内科の瀬尾先生からお話をいただきました。充実した1 日となり、生徒たちは医学部受験へ向けて、さらに意欲を高めているようでした。

